



愛知集会実行委員会

ニュース No.3

2017年2月発行

集会案内が完成しました！

2017年も1か月過ぎ、愛知集会まで後5か月となりました。愛知集会に向けての準備も着々と進んでいます。同時に実行委員会では学習も継続して行ってきました。

第6回実行委員会では「愛知の保育の原点を学ぶ」ー「レングの子ども」をもとに（ニュース裏面に掲載）の学習を行い、第7回実行委員会は古葉研司さん・東内瑠里子さんによる「幼稚園教育要領及び保育所保育指針・教育保育要領改訂についての学習会が、第8回実行委員会では、河崎道夫さんの「この歴史的に新しい子育ての場で子どものあそび世界を創造しよう」と題して講演が行われました。どの学習会も、1日目トークライブ・特別講座で話される内容とリンクしております。近日中にホームページニュースにて報告を考えています。

「集会案内」もいよいよ完成しました。2月上旬にはみなさんのところに届くように発送作業しております。ご覧いただくと分かるように、1日目のオープニング、わくわくトークライブ、歓迎行事も充実した内容となっております。また13の特別講座も選りすぐりの内容です。分科会は現在91本と昨年を上回る提案数となっています。愛知・三重・岐阜の仲間と共に、全国のみなさまをお迎えする準備を整えております。

2月1日午前10時より、パソコンやスマートフォンで全国保育問題研究協議会ホームページ（zenhoonon.jp）に、**集会案内のダウンロード及び第56回愛知集会の申し込み**ができます。ぜひアクセスしてみてください。

★特別講座13の中からピックアップ★

D 幼稚園のこれまでとこれから ー金井幼稚園の保育実践から考える

東京集会の「幼稚園」企画からの継続を意識しつつ、保問研を共につくってきた幼稚園実践の内実から学びを深めます。いま大切にしたい保育・教育について考えます。

木都老克彦（金井幼稚園）・勅使千鶴（日本福祉大学名誉教授）

G I Love HOIKU so We Love KENPOU ー私たちの大好きなこの国の憲法を知ろう

「自由と民主主義」の可能性を求める若者が、自分の言葉で「自分たちの権利」を語り始めています。「憲法についてみんなで学び、保育の中で大切にしたいことを考えてみたいと思います。

田巻紘子（弁護士）・元シールズ所属学生・保育士

I 伝承遊びをやってみよう！

ー子どもの心とつながるあそびのタネをみつけない

「明日から子どもとあそべるあそび」を、身体を動かしながら楽しむ講座です。「あそび心」をくすぐる極意や誰にでもできる「伝承あそび」の世界が体験できます。

和田亮介（のぎく保育園）・西川典之（劇団風の子中部）

L 「お酢」ア・ラ・カ・ル・ト

ー東海地域の醸造文化

愛知県の有名な醸造業のひとつに「お酢」があります。江戸時代に発展した江戸前握り寿司にも、愛知のお酢が大きく関わっています。お酢の歴史、種類、健康法などさまざまな視点から学びましょう。

赤野裕文（株）Mizkan MD 本部 製品企画部）

「愛知の保育の原点を学ぶ」

～ 『レンガの子ども』をもとに～



穴戸健夫さん



河本ふじ江さん

第6回実行委員会では、河本ふじ江さん、穴戸健夫さんのお二人を講師に、「愛知の保育の原点を学ぶ」として、「自身の実践をお書きになられた名著『レンガの子ども』についてお話頂きました。

四季折々の素晴らしい自然と共存し、自然の恩恵をより身近に感じることのできる日本人は、同時に自然の厳しさとも共存しています。伊勢湾台風という歴史に残る災害後、情熱的な保育が試行錯誤の中で生まれていくお話は、大変興味深く、今でも色あせることのない貴重なお話でした。時代背景は違えども、人として普遍的である愛情と情熱を持って、子どもたちに向かい合うお話は、私たちに勇気をくださいました。

また、災害という観点からも、今の私たちにとって、大変興味深いお話でした。自然災害が頻繁に起こる現在の日本では、『レンガの子ども』から学ぶべきものがあるという意見も、会場から出されました。今現在、保育現場で活躍している世代で東海地方で育った人々は、伊勢湾台風というものを学校の学習の中で学んできた世代ではないかと思えます。おそらく、保育という観点から伊勢湾台風に触れることはなく、今、保育というフィールドにいるからこそ出会える、後世に語り継がれるべきストーリーであり、とても考えさせられるものでした。自然の厳しさと隣り合わせで生きる私たち日本人にとって、改めて問題提起をして頂いたように思います。

あともう
一步

会場から足を延ばして

聚楽園（しゅらぐわん）の大仏



ちなみに聚楽園の大仏は
鉄筋コンクリート製です。
（名鉄常滑線聚楽園駅徒歩5分）

愛知集会の会場となる日本福祉大学東海キャンパスへ名古屋駅から電車で行かう途中、最寄駅太田川駅の二つ手前に聚楽園（しゅらぐわん）駅があります。その駅のすぐ側の丘には赤銅色の大仏さんを見ることが出来ます。大仏のある聚楽園は、漬物や新聞、鉄道などの事業に参入した実業家山田才吉が料理旅館として作られたそうです。その敷地内に昭和天皇ご成婚事業として私財を投じて大仏を建てたと言われています。現在はお寺の所有となり、周辺は屋内プールや公園のあるしあわせ村として東海市が整備した憩いの場となっています。みなさんがこれまでにご覧になった大仏と比べてみるのも面白いかもしれません。

